



2004年8月7日

日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

43-0468(福田)
42-2462(鈴木)

必要に 本必 費用倍増の見直し 広域農道(萩ロード)の計画

146億円 266億円の税金投入

いま広域農道の計画変更に伴う同意徴集が、市内の農家で行われています。この広域農道は華川町小豆畑の山間部から高萩市横川をへて大宮町までの約六七キロの基幹農道を整備する事業です。すでに北茨城市部分は完成していますが、他市町村の未完成部分約六キロを整備するための計画変更であり、沿線市町村の農家全体の同意が必要とされています。

この広域農道の当初の目的は、北茨城市や高萩市など県北山間地帯の広域的な農業の振興、特に酪農など営農団地の輸送道路として牛市場のある大宮町まで整備するというもので一九八一年に事業が開始されました。事業完了の予定は九五年でしたが大幅に遅れて現在に至っています。その理由について事業主体の一つである県常陸太田土地改良事務所は「地形・地質が工事難航な場所であり、用地の取得にも時間がかかった。そして最大の原因は予算がつかなかったことである」と述べています。

今回の計画変更の理由として県は「事業開始以来二〇年余が経過して、この間農業をめぐる諸情勢も大きく変化してきたこと」を上げています。そして、今後は「農村振興だけでなく、合併に伴う常陸太田市や大宮町の基

広域農道計画変更の概要
（広域農道）
県北東部地区
—計画変更のしおり—

3. 事業費

変更前	変更後
146億円	266億円

幹道路、北茨城市や高萩市の観光道路としても活用をはかりたい」と述べています。今回の計画変更により事業費は当初の一四六億円から二六六億円に大幅に引き上げられます。

通行量は見込みでも一日わずか74台

日本共産党市議団は、「市民があまり利用しない道路で、ムダ使いの典型の一つ」として、厳しく批判してきました。完成している北茨城〜高萩区間の当初の計画交通量は一日当たり、わずか七四台。これ自体、極端に少ない通行量で、他の道路事業なら「必要性がない」として絶対に採択にならない計画ですが、県の強引な指導のもとに事業が推進されてきました。多くの市民からは萩の咲く時しか走らない道路」と言われ、実際には、当初計画の七四台はおろか、「一日に数台しか走らないのでは？」とされています。北茨城市はこの広域農道に昨年度までに負担金、償還金合わせて約八億六四〇〇万円支出しており、今後も五億一三〇〇万円を投入する計画で、合計金額は一三億七〇〇〇万円に上ります。

同意対象は農家のみ、説明も不十分

今回の同意徴集の対象者は、北茨城市から大宮町にかけての農家一万二〜三千人で、市内では、やはり農家のみ二千名となっています。これらの三分の二の同意が得られれば、事業は推進されますが、十分な説明や情報開示もないまま、同意徴集が行われているのが実態です。

共産党市議団は「充分な道路の必要性を検討しない中で、安易に計画の変更を行ない予算規模を一二〇億円も増額するとは到底認められない。今後とも無駄な大型開発をストップさせ、予算の使い方を市民の暮らし優先に転換するため全力を上げる」と述べています。

ご相談は
お気軽に



市議会議員
福田 明
☎43-0468



市議会議員
鈴木 やす子
☎42-2462

日本共産党茨城県北部地区委員会のホームページ
<http://www.jcp-net.jp/ibahoku/>